

〈外国語〉

コミュニケーションを支える方略的能力を育成する授業づくり

——「ペラペラパワー」の活用と Small Talk を軸とした単元計画を通して——

うるま市立高江洲小学校教諭 山 田 夏 澄

I テーマ設定の理由

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』（以下、『解説外国語編』）によると、グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要となることが想定され、小学校中学年から外国語活動、高学年には教科として外国語が導入された。外国語科では「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成」を目標とし、その育成すべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」それぞれに関わる外国語特有の資質・能力を育成する必要があると示されている。さらに小学校において相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、もっている知識などを総動員して他者に外国語で自分の思いを何とか伝えようとしたりする体験を通して、コミュニケーションを図ることの難しさや大切さを感じるということが言語によるコミュニケーションを身に付ける上で重要であると示している。

昨年度から導入された外国語の自身の授業実践を振り返ると、「話すこと〔やり取り〕」の場面で、児童は自分の考えや気持ちではなく、その日学習した表現で機械的に伝え合うなど、相手に伝わっているかには関心が薄いように見られた。また、聞き手の児童も反応が弱く、相手が話し終わるのをただ待っている様子も見受けられた。さらに、単元終末の〔発表〕の場面でも、児童は相手を意識せず発表するなど、コミュニケーション能力を身に付ける上で重要となる事柄を意識した授業展開になっていなかった。こうした状況を改善するためには、自分の思いをなんとか伝えようとしたり、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを感じられる授業展開や小学校段階で重要となるコミュニケーションを支える能力を育成することが必要であると考えた。

そこで本研究では、コミュニケーションを支える能力の中でも方略的能力の育成を目指し、Small Talk を帯活動とした単元計画を行う。具体的には、第5学年「I have P.E. on Monday.」の単元において、Small Talk の話題を方略的能力の段階的な指導と組み合わせる。児童が繰り返し伝え合う活動を行うことで相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返しながらいったりする体験を積み重ね、コミュニケーションの楽しさや大切さを感じさせる授業を実践したい。「他者に配慮しながら『夢の時間わり』を言ったり、聞いたりしよう」という単元目標を児童と共有し、前時の復習となる言語材料を Small Talk の話題で扱い、スモールステップで表現が身に付けられるよう計画する。第5学年では、自分の考えや情報などを伝えるための語彙や表現は限られている。未熟な知識や技能を補う方略的能力の表現を「ペラペラパワー」と名付け、児童が自ら工夫して伝え合うことができるよう言語活動を充実させる。さらに、視覚教材によって児童が視覚からの情報も手掛かりに対話を広げることができるよう学習環境作りを行う。

このように、方略的能力を育成する表現「ペラペラパワー」と Small Talk を単元目標に向かって、スモールステップで指導を行うことで、もっている知識などを総動員して互いに自分の思いをなんとか伝え合おうとし、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育むことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

方略的能力を育成する表現「ペラペラパワー」と Small Talk を単元目標に向かって、スモールステップで指導することで、コミュニケーションを支える方略的能力を育成することができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 コミュニケーションを支える方略的能力

(1) コミュニケーションを支える方略的能力とは

『解説外国語編』によると、高学年の外国語科では、「学びに向かう力、人間性等」の目標を「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」と示している。さらに、この「他者に配慮しながら」とは相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返ししながら聞いたりすることが考えられるとも示している。

Canale&Swain (1980)、高橋 (2011) は、コミュニケーション能力には、それを支える 4 つの能力があると述べている。その 4 つの能力の具体的な記述をまとめたものが表 1 である。

泉恵美子 (2017) は、「小学校英語の特徴としては、意味を中心としたやり取りからコミュニケーション活動へ段階的に指導を行うことが必要である。しかしながら、児童が使用できる語彙や表現が限られ、英語のスキルが十分ではないため、英語で自分の考えや情報をうまく伝えたり、相手の気持ちを理解したりすることは難しい。また、相互の協力や手助けが重要であり、協働的対話が必要となる。協働的対話では、困った時に聞き返しや確認、つなぎ語やジェスチャーなどを使用して身体で伝えたり、相槌や反応を返したりしながら表情豊かに相手とコミュニケーションを行うといった方略的能力は、小学校段階で育成すべき重要な概念となるであろう。」と述べている。

表 1 コミュニケーションを支える 4 つの能力

① 文法能力	伝達を豊かにする語彙や文法など言語材料を使いこなす能力
② 社会言語的能力	時と場、目的や相手に応じて、適切な言葉を使う能力
③ 談話能力	まとまりのある文章・会話を理解し作り上げる能力
④ 方略的能力	コミュニケーションの最中に困った時、自分の持っている力で何とかそれに対処できる能力

以上のことから本研究では、「話すこと」「聞くこと」に焦点を置き、コミュニケーションを「他者に配慮しながら伝え合う力」と定義し、めざす児童の姿を①自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う姿、②対話で困った時に相手に聞き返したり、別の言葉で言い換えたり、つなぎ語やジェスチャー、相槌や反応を返ししながら伝え合う姿、と捉え、コミュニケーションを支える方略的能力の育成を目指した授業づくりを行う。

以上のことから本研究では、「話すこと」「聞くこと」に焦点を置き、コミュニケーションを「他者に配慮しながら伝え合う力」と定義し、めざす児童の姿を①自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う姿、②対話で困った時に相手に聞き返したり、別の言葉で言い換えたり、つなぎ語やジェスチャー、相槌や反応を返ししながら伝え合う姿、と捉え、コミュニケーションを支える方略的能力の育成を目指した授業づくりを行う。

(2) 方略的能力を育成する表現「ペラペラパワー」とは

大城・萬谷 (2017) は、「小学校外国語で目指すコミュニケーションについて、セリフを互いに言い合うのではなく、何らかの思考や判断の結果として、身近なことについて、相手に『情報』を伝え合うということが欠かせません。自分が知らない相手の情報、相手が知らない自分の情報があることで伝え合いの必要性や喜びが生まれてきます。(中略) また、伝達場面において、相手の理解度に配慮しつつ伝える工夫をし、共感する感性を育てることは、外国語において人間教育にもつながる大切な視点です。」としている。また『小学英語指導法辞典』では、小学校で指導することが望ましい 3 つのコミュニケーション・ストラテジー (方略) について、「小学校段階で使える単語や表現が限られている場合はとても有効な手段となり、児童が楽しくコミュニケーションを行い、成功体験を積み重ねるためにストラテジー指導は大切である。」としている。本研究では、「相手が言っている英語がわからない時の表現」「自分が言いたいことが英語で言えない時の表現」「会話を円滑に進める表現」、この 3 つのストラテジーの表現を児童のやる気と親しみやすさを引き出すため「ペラペラパワー」と名付け、英語でのやり取りの場面において、自分の気持ちや考えをうまく伝えられない時などに、どのようにそれを乗り越え、やり取りを続けていくのか、という具体的なスキルを指導する。

3つのコミュニケーション・ストラテジー（方略）		
ペラペラパワー①	ペラペラパワー②	ペラペラパワー③
相手が言っていることがわからない時 1 Once more, please. もう一度おねがいします。 Pardon? 2 Slow down, please. ゆっくり話してください。	言いたいことが英語で言えない時！ 1 ジェスチャー 手や体を使って表現！ 2 言いかえ！ 知っている英語や、かんたんな英語に言いかえてみよう！ 3 What's ○○ in English? ○○って英語で何ていいますか	会話をつづけるコツ 1 あいづち うなずいたり、返事をしよう！ 2 ほめほめ言葉 一言感想を伝えよう！ 3 How about you? 相手の考えも聞いてみよう！

図1 方略的能力を育成する表現「ペラペラパワー」の視覚教材（小学英語指導法辞典をもとに作成）

また、やり取りの際にいつでも補助となるよう図1を視覚教材として教室のよく見える場所へ掲示する。

これらの3つの表現を1時間に1つずつ指導する。その指導の手順は表2の通りである。1「提示」では、授業中に「ペラペラパワー」をSmall Talkと組み合わせる。教師がよいモデルと悪いモデルを示す。2「表現」の練習では、「ペラペラパワー」の表現の練習を行う。3「タスクの実施」では、児童にSmall Talkの中で指導した表現を実際に使わせる。4「評価」では、振り返り

表2 「ペラペラパワー」の指導手順

手順	提示
1	HRTとALTでコミュニケーションがうまくいかない場面を示し、児童にどうすればよいかを考えさせる。次にストラテジーを用いたよいモデルを提示し、気付いたことを発表させる。
2	表現の練習 用いる表現を練習する。
3	タスクの実施 例えば、間違い探しのタスク（課題）の最中に、聞き返しや確認を表す表現を用いて、実際にペアでやり取りを行わせる。
4	評価 活動を振り返らせ、うまく使えたかどうか尋ねる。また、上手な児童を示し、ストラテジーが役立つことを確認し、次からも自発的に用いるよう励ます。

ことでコミュニケーションがどうなったかを思い出させ、その有効性を理解させる。児童が有効性を理解し、自ら進んで使えるようになることを期待する。

(3) 「ペラペラパワー」を活用した授業展開

『解説外国語編』には、小学校段階で指導する語数は中学年の外国語活動で慣れ親しんだ語を含めて600～700語程度とし、聞いて意味を理解できる語句と話して表現できる語句の学習を規定し、明確なイメージをもって指導計画を立てることが望まれると示されている。大城（2017）は、「『Communication comes first.』コミュニケーションが先であって、単語を覚えるのが先ではない。教師がそういうメッセージを伝えることが重要です。」と述べている。

そこで本研究の第5時の授業では、職業に関する語句指導より先にコミュニケーションを優先した授業を行う。ペラペラパワー①

「相手が言っていることがわからない時の表現」やペラペラパワー②「言いたいことが英語で言えない時の表現」を育成する場を設定する。教科書では前時の第4時で職業に関す



図2 コミュニケーションモデル

る語句に慣れ親しむことをねらいとした授業が計画されているが、私たちの周りは外来語があふれていることに気づかせ、自分も持っている知識などを駆使して何とか伝え合う活動の場として、あえて授業の順番を入れ替えて授業を行う。また、単元目標の「他者に配慮しながら『夢の時間わり』を言ったり、聞いたりする」の「他者に配慮しながら」については、ペラペラパワー③会話を続ける表現を指導することや図2のコミュニケーションモデルを掲示することで、常に相手を意識させながらコミュニケーション活動ができるようにする。テーマ設定でも述べたこれまでの「相手に伝わっているか関心が薄い」「聞き手の児童の反応が弱い」という課題も改善し、コミュニケーションの際に重要な態度の育成も図れるよう「ペラペラパワー」の活用と掲示物での学習環境の工夫も行う。

2 Small Talk について

(1) Small Talk とは

『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』（文部科学省 平成 29 年 6 月）

（以下『外国語ガイド』）によると、Small Talk とは、外国語の授業の中で 1 ～ 2 分程度行う対話的な言語活動であり、既習事項を繰り返し使用することや、対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを目的としている。本単元では、この Small Talk の目的が、目指す児童像①自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う姿、②対話で困った時に相手に聞き返したり、別の言葉で言い換えたり、つなぎ語やジェスチャー、相槌や反応を返ししながら伝え合う姿を育むことに有効であると考え、Small Talk を言語活動として授業の帯活動で取り入れる。単元目標と Small Talk の話題を結び付け、1 時間の授業毎にスモールステップで語彙や表現を身につけさせ、対話を続ける活動を積み重ねながら単元を構成する。『外国語ガイド』では、コミュニケーションを行う際に欠かせない対話を続けるための基本的な表現として表3のように指導する6点を示している。

表3 対話を続けるための基本的な表現例

1 対話の開始	Hello. How are you? など
2 繰り返し	相手: I went to Tokyo. 自分: You went to Tokyo.
3 一言感想	That's good. Really?
4 確かめ	Pardon? Once more, please.
5 さらに質問	相手: I like fruits. 自分: What fruits do you like?
6 対話の終了	Nice talking to you.

(2) 単元目標と Small Talk の指導計画

本単元の最終目標「他者に配慮しながら『夢の時間わり』を言ったり、聞いたりしよう」の「夢の時間わり」の発表の基本話型は表4の4文としている。これら4つの文を繰り返し使えるよう Small Talk の話題を前時の復習が主となるよう計画し、段階的に指導を行う。Small Talk や伝え合う活動の中で、言語材料と表3「対話を続けるための基本的な表現」に「ペラペラパワー」も加えて、他者に配慮にしながら伝え合う力を育みたい。児童の発達段階を踏まえ、正しい英語よりも、「伝わる英語」を優先し、伝わる喜びを味わわせながらコミュニケーションを図る態度も身に付けさせる。単元目標に向かった Small Talk の話題とペラペラパワーの指導の組み合わせを表5の通り計画し、指導を行う。

表4 単元目標「夢の時間わり」発表の話型

①	I have (教科名を順に列記).
②	I like (好きなことや教科).
③	I study (教科名) with (人物) .
④	I want to be a (職業名) .

表5 Small Talk の指導計画と
方略的能力を育成する表現「ペラペラパワー」

時	Small Talk の話題	ペラペラパワー
1	今日の時間わり	
2	好きな曜日と教科	ペラペラパワー①
3	好きな教科	ペラペラパワー②
4	一緒に学びたい人	ペラペラパワー③
5	一緒に学びたい人 なりたい職業	ペラペラパワー ①②③の活用
6	単元のゴール 「夢の時間わり」	
7	既習事項の活用	

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 Lesson 3 「I have P.E. on Monday.」夢の時間わりを作ろう

(教育出版 ONE WORLD Smiles 5)

2 単元目標

- (1) 教科や時間わり、職業の表し方を知り、言うことができる。【知識及び技能】
- (2) 夢の時間わりを考えて、伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 相手が伝わるよう工夫して話し、また、発表している友だちが話しやすい聞き方をしようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準 (単元の評価規準(「聞くこと」「話すこと」に焦点をおく。))

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと		教科や時間割、曜日、職業の言い方の基本的な表現について理解している。 What do you have on Monday? I have Japanese on Monday. どの曜日にどんな授業があるかを話す技能を身につけている。	友達が話すのを聞いて、好きな曜日の時間割や将来の夢に向けて、どの教科にがんばって取り組んでいるかについて聞き取ったりしている。	友達が話すのを聞いて、わからないことがあれば確かめたりしながら、好きな曜日の時間割や将来の夢に向けてどの教科にがんばって取り組んでいるかについて聞き取ったりしようとしている。
	発表	教科や時間割、曜日、職業の言い方、 What do you have on Monday? I have Japanese on Monday. という基本的な表現について理解している。 どの曜日にどんな授業があるかを話す技能を身につけている。	自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、簡単な語句や基本的表現を用いて話している。	自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、時間割表を示すなどして、伝わるように話そうとしている。
話すこと	やり取り	教科や時間割、曜日、職業の言い方、 What do you have on Monday? I have Japanese on Monday. という基本的な表現について理解している。 どの曜日にどんな授業があるかを伝え合う技能を身につけている。	自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、簡単な語句や基本的表現を用いて伝え合っている。	自分の将来の夢をかなえるための時間割を友達に知ってもらうために、時間割表を示すなどして、伝わるように伝え合おうとしている。

4 単元計画

時	●ねらい ○Small Talk 話題とペラペラパワー ◎中心となる言語活動の話題	【評価の観点】 (評価方法)
1	●外国の子もたちの学校生活に関心をもち、単元の見通しをもつ。 ○今日の時間わり We have (教科 時間わり)on (曜日). ◎好きな時間わりの曜日と教科	【態】 世界の小学校の学校生活に関心をもち、自分の学校と同じところやちがうところを伝えようとしている。(行動観察)
2	●曜日・教科に関する言葉に慣れ親しむ。 ○好きな時間わりの曜日と教科 ◎登場人物が好きな曜日とその日の時間割について I like (曜日). I like (教科名). I have (教科名)on (曜日).	【知・技】 教科や曜日に関する言葉を聞いたり言ったりする。(行動観察)
3	●学びたい教科と一緒に学びたい人について友達と伝え合う。 ○好きな教科とペラペラパワー①② ◎学びたい教科と一緒に学びたい人。 I like (教科名). I want to study with(一緒に学びたい人).	【思・判・表】 自分が学びたい教科や学びたい人について友達に伝えたり聞いたりすることができる。(行動観察)
4	●夢の職業と教科を関連づけて考える。 ○一緒に学びたい人とペラペラパワー①②③ ◎なりたい職業とそのために頑張っている教科。I like (教科名). I study(教科名).	【思・判・表】 教科と職業を関連付けて時間割を考えることができる。(ワークシート)
5	●自分の「夢の時間わり」について考え、友達と交流する ○一緒に学びたい人とペラペラパワー①②③ ◎なりたい職業 I want to be a(職業).	【思・判・表】 夢の時間割を考え、友達と考えを交流する。(行動観察)
6	●他者に配慮しながら「夢の時間わり」を言ったり聞いたりする。 ○「夢の時間わり」基本の話型とペラペラパワー①②③ ◎「夢の時間わり」の発表会 基本の話型 I have (教科・時間わり). I study (教科) with (一緒に学びたい人). I want to be a(職業).	【態】 他者に配慮しながら、発表したり聞いたりしようとしている。(行動観察) 【思】簡単な語句や基本的な表現を使って話している。(ALTによる評価)
7	●単元全体の学びを振り返る。 ○既習事項とペラペラパワー①②③の活用 I have (教科・時間わり). I study (教科) with (一緒に学びたい人). I want to be a(職業).	【態】 単元全体をふりかえり、自分の学んだことについて考えようとしている。 (アンケート・自由記述)

5 本時の指導（5／7時間）

(1) 単元名「I have P.E. on Monday.」 夢の時間わりをつくろう

(2) ねらい：自分の「夢の時間わり」について考え、友達と交流する

	児童の活動	HRT・ALT の活動	※指導上の留意点
導入	Warm up ・Greeting ・Small Talk ・How about you? を使って Small Talk をしよう。 ※職業が英語で言えない児童はこの時点では日本語で OK。	ALT: 日直と Daily question の補助 ペラペラパワー③（会話を続ける表現） 担任: I want to be a singer. How about you? ALT: I want to be an artist. 担任: Once more, please. ALT: ジェスチャーや簡単な言葉で言い換える。 担任: 児童に考えさせる。 児童: 「似顔絵! 絵描き! アーティスト!」	
展開	めあて：「ペラペラパワー」を使って、夢の時間わりを言ったり聞いたりしよう。 1. Let's watch ・発表会の活動モデル動画の視聴 ・自分の「夢の時間わり」をどのように伝えるか考える。 2. Let's think ・自分の夢の職業をどういったらいいのか考える。 ・考えがまとまったら、個別練習をし、ペアやグループで伝え合う。 中間振り返り 3. Activity(やりとり) 「夢の時間わり」基本の話型 ① I have (教科名を順に列記). ② I like (好きなことや教科) ③ I study (教科名) with (人物). ④ I want to be a (職業名).	1. 「夢の時間わり」基本の話型を提示し、活動の見通しを持たせる。 2. 数名の職業を日本語で取り挙げ、その職業名を英語で作ってみる。 3. 担任教師と ALT 「ペラペラパワー」①②③を使いながら基本の話型でやりとりを行う。 中間振り返り ・言いたい職業が英語にできなかった児童を取りあげ、全体で考える。 3. 「コミュニケーションモデル」を意識させる。	※話す時は、ゆっくり、はっきり相手に伝わるように話すよう指導する。 ※言いたい職業を身近な外来語やジェスチャーで伝えてみるよう促す。 ※やりとりの間、教師は職業を英語にできない児童へ、近くにいる児童から言い換えのヒントをもらい、一緒に考えさせるなどの補助を行う。 対話の時には、常にコミュニケーションモデルを意識させる。 コミュニケーションモデル
まとめ	振り返り 本時の学習をふりかえる。	振り返りの視点 1 今日の英語はわかった。 2 学んだ英語を会話の中で使うことができた。 3 授業で英語を楽しむことができた。 4 「ペラペラパワー」を使って会話ができた。	※単元計画表を参考にしながら、今日のめあて(ねらい)が達成できたか確認し、単元ゴールに向かってステップアップできたか確認する。 ※できたことや気付いたことも記入させる。



IV 仮説の検証

本研究では、研究仮説に基づきコミュニケーションを支える方略的能力を育成する授業づくりにおいて、方略的能力を育成する表現「ペラペラパワー」の指導と単元計画と結びつけた Small Talk の計画が有効であったか、行動観察、児童の振り返り、検証授業前後のアンケート調査の分析をもとに検証を行う。

1 方略的能力を育成する表現「ペラペラパワー」の指導の検証

(1) 「ペラペラパワー」指導の手順について

方略的能力を育成するこの3つの表現を「どのような場面で使うのか」ということを教師が具体例を示しながら明確にし、児童が使う場面を自ら判断できるようになったかを検証する。

まず指導の手順は、担任教師HRTとALTのやり取りの中で会話がうまくいかない場面を表6のようにSmall Talk の話題と組み合わせで行い、児童にどうしたらよいのか考えさせた。

「ペラペラパワー」を使わない場面と比較したりして、コミュニケーションを粘り強く続けるために役立つことが実感できるようにした。授業後の児童の振り返りには、「ペラペラパワーを使うとわかりやすい」や「ジェスチャーを使うと会話が楽しい」などの感想があり、単元前半では「ペラペラパワー」を使っている児童はわずかであったが後半に進むに連れてペラペラパワーを使ってやり取りを行う児童が増加している。その理由として、やり取りを積み重ねたことで徐々にどのような場面で使用するか判断できるようになってきたと考えられる。表7の毎時間ごとのアンケートの結果から96%の児童が単元終末で「ペラペラパワーを使って会話ができた」と回答し、図3のようにALTの補助も受けながら少しずつ「ペラペラパワー」を取り入れながら対話をすることができるようになった。

以上のことから、「ペラペラパワー」を使って外国語でコミュニケーションを図ることの楽

表6 「ペラペラパワー」指導の具体例

ペラペラパワー①	ペラペラパワー②	ペラペラパワー③
話題 「好きな教科」 + 相手が言っていることがわからない時の表現。	話題 「一緒に学びたい人」 + 言いたいことが英語で言えない時の表現。	話題 「なりたい職業」 + 会話を続ける便利な表現 「How about you?」
HRT: What's subject do you like? ALT: I like EPP. (フィリピンの教科) HRT: Once, more please. ALT: ゆっくり話したり畑を耕す動作をしたりして表現する。 HRT: 児童に考えさせる。 ALT: vegetable, fruit. 野菜や果物の名前を挙げる。 児童: Home economics? 育ててるから生活科? ALT: 生活科に似た母国の教科であることを英語で説明する。 ※(異文化理解)	HRT: I like music. I study music with マイケルジャクソン. ALT: わからないというジェスチャー。 HRT: 「どうにかして、マイケルジャクソンを伝えよう」と児童に考えさせる。 児童: アメリカ、ダンサー ムーンウォーク、スリラー。 ※知っている情報を伝える。 ALT: oh! Michael Jackson ※外国人の名前は、カタカナ読みと違うことに気付かせる。	HRT: I want to be a singer. ALT: Oh, That's nice. HRT: How about you? ALT: I want to be an artist. HRT: Once more, please. 児童に考えさせる。 ALT: 絵を描くジェスチャー 「Leonardo da Vinci」と言い換える。 児童: 画家 イラストレーター ※「How about you?」と児童にたずね、使い方が理解できるようにする。

表7 「ペラペラパワー」についてのアンケートの結果

ペラペラパワーを使って会話ができましたか? (n=97)						
第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時
0%	0%	16%	23%	47%	76%	96%

A	I study moral education with Mother Teresa.	Small Talk 話題
B	Oh, Nice!	ペラペラパワー③
A	How about you?	ペラペラパワー③
B	I study P.E. with Kobe Bryant.	Small Talk 話題
A	Once more, please.	ペラペラパワー①
B	Kobe Bryant. Basketball player!	ペラペラパワー②
A	That's nice!	ペラペラパワー③



図3 児童の対話の内容

しさやよさを実感できたと考える。しかし、授業内の行動観察からは、「ペラペラパワー」の一部の表現のみを繰り返し使用している様子が見られ、まだ十分定着できているとは言い難い。今後も使用する表現の幅が広げられるよう、やり取りを積み重ねながら指導を継続する必要がある。

(2) 「ペラペラパワー」を活用した授業展開について

第5時ではコミュニケーションを優先する授業を行った。児童に思考させ、本当の考えを引き出すため、職業に関する語句の学習とやり取りの授業の順番を入れ替えた。なりたい職業を伝え合う活動では、語句の学習を先に行うとその中から職業を選び、機械的なやり取りになる可能性がある。そのため語句の学習は前時までの「聞くこと」の活動で扱う8種類の職業だけに留め、教科書で扱う全ての語彙の学習は第7時とした。

まず、やり取りを行う展開場面で、児童がなりたい職業の例を2、3名とり挙げ、学級全体で言いたいことに近い英語を探す練習を行った。多くの児童は即興で答えることができていた。例えば「獣医」は「アニマルドクター」、アニマルを知らない場合は、ドッグやキャットにすればよいという発言もあった。女子児童から1番人気のあった「保育士」は「キッズティーチャー」。なりたい職業はまだ決まっていないが「お金持ち」になりたいという意見には「ビッグマネーマン」。児童は、自分の身近な外来語を組み合わせてたり、その職業の人の名前を挙げたり、ジェスチャーで仕事の動きを表したりと、自分が持っている知識を駆使して表現していた。教師はそれを肯定的に受け止め、共感的な言葉を返すことで「言い換えてみたい」という児童の気持ちが高まるよう支援した。

その後「自分のなりたい職業はどう言ったらいいか。」と問い、思考する時間を2、3分与えてからやり取りを開始した。さらに、「中間振り返り」の時間を設け、職業を英語にできない児童や困っていることを確認し、全体で考え共有した。児童は自分の考えを伝えるために言い換えたり、ジェスチャーを使ったりしてやり取りを行う姿が見られた(図4)。教科書で扱う16種類の職業に対して、授業を行った児童93名から44種類の職業を引き出すことができた。児童の考えた職業の表現の一部を表8で紹介する。授業後の児童Aの振り返り図5では、「習っていない職業でも、言いかえて伝えることができる」とわかった。」と、自分たちの身近にある英語で何とか伝えられるということを実感していた様子である。

さらに、授業後には、自分がなりたい職業の英語を家族に聞いてきたり、自分で調べてきた児童がいたりし、発表会では正しい英語を使って話す児童もいた。本単元で扱う語句の職業は第7時でポインティングゲームを通して学習した。児童は「本当の英語を覚えた方が簡単に伝えられる」「本当の英語な

表8 児童が考えた表現

なりたい職業	児童が考えた表現
パン屋さん	ベーカリーコック
役者	ドラマプレイヤー
琉舞の先生	オキナワダンスティチャー
体操選手	P. E. マットプレイヤー
お金持ち	ビッグマネーマン
美容師	ヘアカットガール
声優	キャラクターボイス
コンビニ店員	ミニショップレジュプレイヤー
動物園の飼育員	アニマルティーチャー
小説家	ブックライター
生物学者	アニマルサイエンティスト
会社員	サラリーマン



図4 やり取りを行う児童

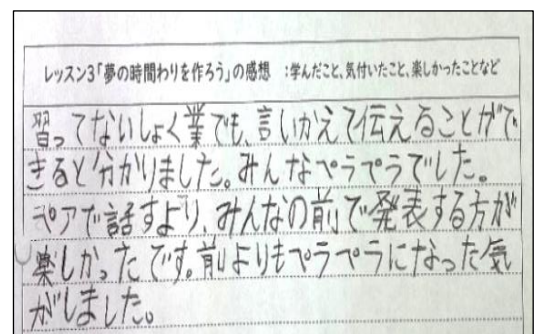


図5 児童Aの振り返り

らもっと短い言葉で伝えられる」などと感想を口にしていた。

以上のことから、児童に思考させ、本当の考えをもとにコミュニケーションを行う授業展開を行ったことで、児童は正しい英語でなくても言いたいことに近い内容で伝わることに気づくことができた。また、外国語の語句を学ぶ必要性も感じ取ることができたと考える。「ペラペラパワー」を活用した言語活動を通して、語彙を増やし、外国語でのコミュニケーションをさらに充実させることができると期待する。

2 単元目標と Small Talk の指導計画の検証

(1) Small Talk の指導計画について

毎時間 Small Talk で前時の復習を行い、本時の内容と合わせ単元目標に向かって段階的に指導を行ったことが有効であったかを検証する。前時までの授業の板書等で使用した視覚教材を復習コーナーに掲示し、Small Talk を行う際の補助となるようにした(図6)。児童の振り返りからは「最初はある不安だったけどだんだんできるようになっていくのがわかってうれしかった」とスモールステップで学習できたことがうかがえた。児童の自己評価でも単元目標が達成できた児童は表9のアンケート結果の通り100%であった。話すこと〔発表〕のALTによる評価は、A評価の児童が80.2%、B評価の児童が19.7%であった。Small Talk で既習事項を繰り返し復習することで、話すことに自信を持つことができたと考える。

以上のことから、単元目標と Small Talk の話題を結び付けて計画し指導をすることは有効であった。

(2) 「他者に配慮しながら伝え合う力」が育成できたか

単元目標「他者に配慮しながら『夢の時間わり』を言ったり、聞いたりする」の「他者に配慮しながら」という目標については、「ペラペラパワー③」会話を続ける表現を定着させることやコミュニケーションモデルを掲示し、常に相手を意識させたことが有効であったかを検証する。やり取りを行う場面で、時間割りを伝える際に、児童は指で数えながら話したり、「I want to be～」の「I」は、胸に手を当てながら伝える姿が見られた。また、反応を返しながら聞いたりする様子も見られた(図7)。聞き手が話し手にリアクションすることで、自分の考えが伝わったという実感と伝わる喜びを感じることができたと考える。また、ほめほめ言葉を返すことで自然に学級内の支持的風土ができ、児童は安心して自分の考えや思いを表現することができたのではないかと考える(表10)。テーマ設定でも述べたこれまでの「相手に伝わっているか関心が薄い」「聞き手の児童の反応が弱い」という課題も改善でき



図6 Small Talk の補助となる視覚教材

表9 単元目標達成についてのアンケートの結果

単元目標達自己評価 (n=88)	
よくできた	76%
できた	24%



図7 相手を意識してやり取りする児童の様子

表10 発表後の児童の感想

- ・ 今日のような感じなら発表が楽しく感じる。みんながほめほめ言葉を言ってくれるから、最後までやり通すことができた。
- ・ いつもの発表ははざかしいけど、みんながちゃんと聞いてくれるし、ほめほめ言葉を言ってくれるからまたやりたい。
- ・ みんなの前で英語で発表ができてうれしかった。自分が外国人になった感じがした。

たとえる。授業後の児童Bの感想には「ペラペラはできるはずないと思っていたが、今日成功しました。外国人とおしゃべりできそうです。」と外国語でのコミュニケーションにも自信が持てた様子が見える（図8）。

さらに、検証授業前後に行ったアンケートの「外国人とお話できそうですか」という問いに対する結果は図9の通りである。検証前は50%の児童が「できない」と答えていたが、検証後は全員が「できそう」と「少しはできそう」と答えた。「できない」と消極的に答えていた児童が外国語でのコミュニケーションを楽しみ、外国語への意欲と関心を高めたことがうかがえ、大きな成果であったと考える。

以上のことから、方略的能力を育成する表現「ペラペラパワー」を言語活動に取り入れ、単元目標に向かってスモールステップで指導することで、「他者に配慮しながら」伝え合う力を育むことができたと考える。一方、児童の振り返りから、「ほめほめ言葉の使い方がわからない」と聞き手側の返す表現の活用課題も見られた。表11の数種類の表現の中から、内容は考えずに、返事を単に選ぶようとしているのではないかと考える。今後は内容に重点を置いたコミュニケーション活動の充実を図る。

3 まとめ

本研究を通して、学習指導要領が示す小学校外国語科の目標「コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力」とは、「正しい英語でなくても伝え合おうとする態度」であると捉えることができた。外国語でのコミュニケーションはうまくいかないことが多いことを前提として学習を行い、もっている力でどうにか伝えようと工夫することで伝わった時の楽しさや喜びをより多く経験させたい。今後も言語活動を通して相手に伝えるための工夫を積み重ね、コミュニケーションを図る基礎を育んでいきたい。

V 成果と課題

1 成果

- (1) 「ペラペラパワー」を指導することで、伝え合う工夫ができるようになり、コミュニケーションを支える方略的能力を育成することができた。
- (2) Small Talk の話題を単元目標と結び付けて設定することで、児童はスモールステップで語句や表現に慣れ親しみ、単元目標を達成することができた。
- (3) 児童はALTとのやり取りや単元目標の発表会を通して実際に伝わる喜びを実感し、自己肯定感を高め、伝え合う力を育むことができた。

2 課題

- (1) 児童の振り返りの考察から、聞き手の自己評価が話し手よりも低いことがわかった。聞き手の表現をコミュニケーションの内容と場面に合わせて活用できる言語活動の工夫も必要である。
- (2) 英語で話す内容そのものに意識を向けた発展的コミュニケーション活動と適切に評価の場面を設定した授業づくりを充実させる。

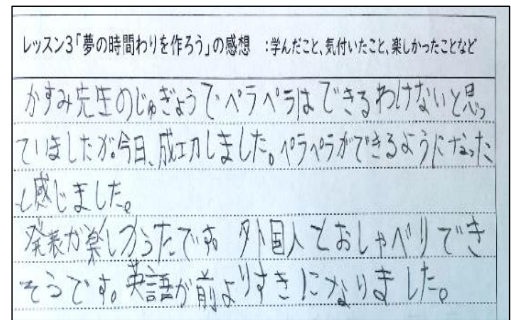


図8 児童Bの感想

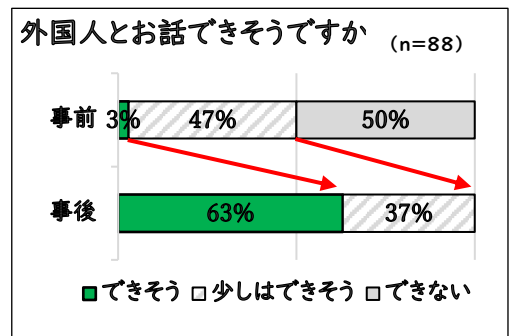


図9 外国語で話すことへのアンケート結果

表11 ほめほめ言葉・あいづち表

ほめほめ言葉	あいづち
Good!	I see
Nice!	Oh!
Great!	Uh, huh.
Cool!	OK.
Good Luck!	Wow!
Good idea!	Me, too.

〈参考文献〉

- 泉恵美子・小泉仁・築道和明・大城賢・酒井秀樹（編） 2020 『すぐれた小学校英語授業』 研究社
- 小泉清裕 2020 『小学校英語 授業づくりの心と技 児童の学びの力を育む』 大修館書店
- 国立教育政策研究所教育課程センター 2020 『「指導の評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動』 東洋館出版
- 江尻寛正 2019 『英語が話せない先生のための小学校外国語指導の教科書』 明治図書
- 太田洋・川野幸一 2019 『小学校英語はじめての一步 授業づくりのポイント』 大修館書店
- 大城賢 2018 『平成 29 年版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 外国語』 東洋館出版
- 大城賢・萬谷隆一 2017 小学校英語早わかり 実践ガイドブック 開隆堂
- 金森強・本多敏幸・泉恵美子 2017 『主体的な学びをめざす小学校英語教育教科化からの新しい展開』 教育出版
- 樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子 2017 『Q&A 小学英语 指導法辞典 教師の質問 112 に答える』 教育出版
- 文部科学省 2017 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』 開隆堂出版
- 文部科学省 2017 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』

〈参考 WEB サイト〉

- 京都教育大学教育実践研究紀要 第 17 号 2017 「小学校英語における児童の方略的能力育成を目指した指導」
- 泉恵美子 <https://www.kyokyo-u.ac.jp/Cece/17-03.pdf>（最終閲覧 2021 年 8 月）